

問1 (×)

ダブルス競技において、サーブの際センターラインに触れたボールはロングサイドとなる。

問2 (×)

ネットの最上部は、全長にわたってプレーイングサーフェスの上方15.55 cm になければならない。また、ラージボールは17.25 cm になければならない。

問3 (×)

ペンホルダーの競技者が片方はラバーを張っていたが、他方は白木のままだった。打球しない面であるので主審は許可した。

問4 (○)

ダブルスのサービスの時、権利を持った方のサーバーが決まれば、最初のレシーバーは直前のゲームでその競技者にサービスを出した競技者となる。

問5 (×)

ラリー中、自分手から離れたラケットにボールが当たり相手コートに入った。相手はリターンに失敗した。自分のポイントである。

問6 (×)

試合中メガネがはずれ床に落ちた。競技者はボールをつかみプレーを止めてレットと主審に申し出た。主審はレットと宣言した。

問7 (○)

主審または副審は、サービスの正当性に確信が持てない場合、それがマッチにおいて初めてであれば注意することができる。

問8 (×)

競技中、突然カーテンが開き光が差し込み、まぶしくてリターンに失敗した。主審は気づかず、相手の点数にした。

問9 (×)

エッジとサイドの判定が難しかったので主審はノーカウントとしてゲームを再開した。

問10 (○)

促進ルールの適用はゲーム開始後10分経過し、双方の合計が18ポイント以上に達しない場合に適用される。また、両方の競技者から要請があった場合にはいつでも適用される。

問 11 (×)

ラリー中フリーハンドを床についてリターンした。相手はミスをしたがフリーハンドをついてはいけないことになっているので相手の点数になる。

問 12 (×)

卓球用のシューズを忘れたため、学校指定のシューズで試合に望んだが、相手の選手からクレームが来た。

問 13 (○)

ラケットには J T T A A の刻印及び商標または指定業者名の略称と、J T T A A の連続刻印がなければならない。

問 14 (○)

ラバーは、公認マークやメーカーの商標ロゴ等がラケット本体のグリップに最も近くはつきり見えるように張らなければならない。

問 15 (○)

大会では、競技者が公認接着剤を使用してラケットにラバーを貼る場所が提供されなければならない。

問 16 (×)

競技者がサービスの判定に対し、納得がいかず審判長に抗議してきた。

問 17 (×)

団体戦の場合、競技にゲームとゲームの間の休憩時間にアドバイスできるのは、ベンチにいることを認められた誰からでも受けることができるため、時間がかかってもやむを得ない。

問 18 (×)

主審がラブオール宣告後、競技者がタイムアウトを要求した。

問 19 (○)

同じ競技者が連続してマッチを行う場合は、マッチとマッチの間に 5 分までの休憩を取ることができる。

問 20

正しいサービスとは。10 項目記載せよ。